

北海道における病院図書室ネットワーク活動

ー北海道病院ライブラリー研究会 30年に向けてー

岸上友紀¹⁾、藤本衣代²⁾、工藤女恵³⁾、大友理佐子⁴⁾、伊藤真紀子⁵⁾、成田ナツキ⁶⁾、
益村亜希子⁷⁾、小杉直美⁸⁾、勇まゆみ⁹⁾、福井堅一¹⁰⁾

¹⁾日鋼記念病院、²⁾手稲溪仁会病院、³⁾天使病院、⁴⁾札幌保健医療大学、⁵⁾帯広厚生病院、
⁶⁾JCHO 北海道病院、⁷⁾網走厚生病院、⁸⁾札幌厚生病院、⁹⁾釧路孝仁会記念病院、
¹⁰⁾北海道看護協会

【はじめに】

北海道病院ライブラリー研究会（以下研究会）は、北海道における病院図書室の質的向上と発展を目的として 1986 年会員 8 名でスタートし、2016 年に 30 年を迎える。会員数は、2015 年 5 月現在 45 名である。これまでの研究会活動を振り返りつつ、研究会活動が果たしてきた役割と今後の取り組みについて考える。

【活動内容】

研究会の主な活動としては、機関誌 NEWS LETTER の発行、研修会の開催、医学雑誌所蔵目録の発行、相互貸借、現況調査の実施、ホームページ公開などがある。研究会の運営は運営マニュアルに従い、役員と協力員で構成された各担当により分担して行っている。

研修会の開催、NEWS LETTER の発行は発足当初から続いている。年 2 回の研修会では、実習など、地域ネットワークならではのプログラムを工夫している。ホームページは 2001 年より公開し、2 回のリニューアルを経て継続している。また、隔年の現況調査で会員のニーズを把握し、活動内容に反映させている。

【病院図書室を取り巻く環境の変化】

設立当初と比べて現在では情報通信技術や情報媒体の発達が急激に進み、図書室業務も転換期を迎えている。来室しなくても情報を入手できる時代になりつつある。患者への医療情報の提供を行うために患者図書室を開設する病院も増えてきた。

【今後の取り組み】

病院から求められる役割に応えるために、病院図書室担当者はどうのような活動を行えばよいのか考えていきたい。求められる役割が多様化していく中で、多くの会員が他職種との兼務で、交替も多いなどの問題を研究会は抱えている。しかし、これまでつながりのなかった道内に、研究会活動を通じて地域ネットワークが形成されてきたことの意義は大きい。きめ細かいサポートができる地域ネットワークは病院図書室の質向上に不可欠と考える。他のネットワークとの連携も視野に入れ、活動を続けていきたいと考える。